

作成番号:0178

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2024-178

\*\*\*\*\*

内容:ピロリ菌の除菌失敗と虫歯が有意に関連

出典:Association between failed eradication of 7-day triple therapy for Helicobacter pylori and untreated dental caries in Japanese adults.

Scientific reports. 2024 Feb 19;14(1):4043. pii: 4043.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38369603/>

\*\*\*\*\*

ピロリ菌は、胃炎、胃潰瘍、胃がんなどを引き起こし、胃がんの 90%以上はピロリ菌が原因とされている。ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)の感染者は 2017 年時点で日本人の約 3600 万人が感染しており、年齢が上がるほど感染率は高まる。ピロリ菌の感染者には抗菌薬による除菌治療が行われるが、除菌は必ず成功するわけではない。ピロリ菌の除菌治療に成功するかどうかは、虫歯の有無と関連しているか、朝日大学歯学部の研究者らによる研究であり、詳細は「Scientific Reports」に 2 月 19 日掲載された。

2019 年 4 月から 2021 年 3 月にピロリ菌の除菌治療および歯科検診を受けた 226 人(男性 150 人、平均年齢 52.7 歳)が対象で、標準的な初回除菌治療として、7 日間の 3 剤併用療法(ペニシリン系抗菌薬、マクロライド系抗菌薬、プロトンポンプ阻害薬)が行われ、1 カ月後に除菌の成否が判定された。その結果、226 人のうち除菌に失敗した人は 38 人(17%)だった。除菌に失敗した人は成功した人と比べて、歯磨きの回数が 1 日 2 回以上である人の割合が有意に低く、虫歯のある人の割合が有意に高かった。次に、年齢、性別、歯磨きの回数による影響を調整して解析した結果、ピロリ菌の除菌失敗は、虫歯ありと有意に関連していた(虫歯なしと比較したオッズ比 2.672、95% 信頼区間 1.093~6.531)。虫歯の本数別に検討したところ、除菌に失敗した人の割合は、虫歯が 1 本の人では 24%(21 人中 5 人)、2 本の人では 40%(5 人中 2 人)、3 本以上の人では 67%(6 人中 4 人)だった。虫歯の本数が増えるほど、除菌に失敗する人の割合が高まるという有意な傾向が認められた。

Multivariate stepwise logistic regression analyses in participants with failed eradication of *H. pylori*.

Factor		ORs	95% CI	p-value
Gender	Female	1	(Reference)	0.659
	Male	1.194	0.543–2.627	
Age (years)	– 64	1	(Reference)	0.282
	65–	1.766	0.627–4.974	
Brushing frequency $\geq$ 2 times/day	Absence	1	(Reference)	0.146
	Presence	0.520	0.215–1.257	
Decayed teeth	Absence	1	(Reference)	0.031
	Presence	2.672	1.093–6.531	

Participants with failed eradication of *H. pylori* according to number of decayed teeth.

Factor	Number of decayed teeth				p value*
	0 (n = 194)	1 (n = 21)	2 (n = 5)	3- (n = 6)	
Failed eradication of <i>H. pylori</i>	27 (14%)	5 (24%)	2 (40%)	4 (67%)	0.002